

「2023年度 著書出版・海外学会等 参加助成」および 「第13回Nextcom論文賞」受賞者

2023年度 著書出版助成 受賞者 (五十音順) 助成金：各200万円

本助成は、情報通信に関する社会科学分野の学術出版を助成し、優れた研究成果の公的な流通を支援するものです。受賞者は、Nextcom監修委員会の推薦に基づき、公益財団法人KDDI財団が決定しています。

2023年度は、助成金(各200万円)を受けられる方が下記のように決定し、2024年2月20日に決定通知書が交付されました。

小西 葉子 氏 (こにし ようこ) 高知大学 教育研究部 助教

書名 『現代の諜報・捜査と憲法—自由と安全の日独比較研究—』(仮題)

概要 本書は、「諜報」「捜査」+「憲法」というテーマに関連して、2017年以降に公表した日独比較の研究論文を集約・加除修正した上で、体系性を持たせた法学の研究書である。

発行 法律文化社 (2025年4月30日出版予定)



山本 龍彦 氏 (やまもと たつひこ) 慶應義塾大学大学院 法学研究科 教授

書名 『デジタル空間の統治者：国家とデジタルプラットフォームの関係』(仮題)

概要 国家を海の怪獣リヴァイアサン、その強靱な対抗勢力となり得るデジタルプラットフォームを陸の怪獣ビヒモスにたとえ、デジタル空間の統治を巡る両者の関係を国際的な状況も踏まえて検討し、国家、デジタルプラットフォーム事業者、個人などがとるべき対応を提言する。

発行 慶應義塾大学出版会 (2024年10月31日出版予定)



2023年度 海外学会等参加助成 受賞者 (助成決定順)

海外で開催される情報通信に関わる国際会議、シンポジウムなどに参加する方を主な対象に、渡航費用などを助成するものです。受賞者はNextcom監修委員会の推薦に基づき、公益財団法人KDDI財団が決定しています。2023年度の受賞者には、以下の4名の方々が決定し、2024年2月20日に決定通知書が交付されました。



佐藤 信吾 氏
(さとう しんご)

大妻女子大学 社会情報学部 専任
講師

対象学会: The International
Association for Media and
History (IAMHIST2023) (2023
年6月20~22日 カナダ)



河又 貴洋 氏
(かわまた たかひろ)

長崎県立大学 国際学部 准教授

対象学会: International Tele-
communications Society (ITS)
European Conference 2023
(2023年6月19~20日 スペイン)



石橋 真帆 氏
(いしばし まほ)

東京大学 学際情報学府 博士後期
課程

対象学会: The 2023 Society for
Risk Analysis Annual Meeting
(2023年12月10~14日 米国)



Ornicha Boonpanya 氏
(オルニカ ブンパンヤー)

早稲田大学大学院 アジア太平洋研究
科 博士課程

対象学会: Sustainability in the
Digital Transformation
(2023年11月16~17日 デンマーク)

第13回Nextcom論文賞 受賞者 副賞: 30万円

Nextcom 論文賞は、若手研究者の方々を奨励するために設けられています。第13回の受賞者は、2022年12月のWinter号 (Vol.52) から2023年Autumn号 (Vol.55) までの1年間に、本誌に掲載された、おおむね45歳以下の著者による論文を対象に、Nextcom監修委員会が選考・決定しました。受賞者には、2024年2月20日、株式会社KDDI総合研究所から表彰状と副賞(30万円)が授与されました。

成原 慧 氏 (なりはら さとし) 九州大学 大学院 法学研究院 准教授

受賞論文 「メタバースのアーキテクチャと法
—世界創造のプラットフォームとそのガバナンス—」
(Nextcom Vol.52、pp24-32 掲載)

概要 メタバースの発展に伴い、バーチャルなアイテムや「土地」の売買に関する問題など、従来の仮想世界やオンラインゲームについて指摘されてきたのと同様の法的問題が生じるようになってきているのに加え、世界創造のプラットフォームとしてのメタバースに固有の法的問題が生じる可能性も議論されるようになってきている。そこで本稿では、メタバースに関する法的問題について、メタバースのプラットフォームとしての構造に着目するとともに、メタバースのアーキテクチャとそれに対する法規制を含むガバナンスの在り方に着目して、試論を展開する。

